

むかし、ある川に、かえるがいつぴきいました。

あるとき、川のほとりの道を、ひとりの博勞はくろうが、馬に乗って歌いながらやって来ました。かえるがその歌を聞いて、

「おれも、あの博勞のようないい声で歌ってみたいなあ」と思いました。そして、

「グエグエ」とやってみました。けれども、どうしてもうまく歌えません。そこで、声をはりあげて、

「グエツグエツ」と歌ってみました。

博勞はびつくりして、馬を止めましたが、あたりにはだれもいません。よく見ると、かえるがいつぴきいました。博勞は、

「これ、かえる、かえる。おまえ、そんなところで何をしている」とききました。かえるは、

「おまえの声があんまりいいので、おれもまねしてみたんだ」といいました。

それから、かえるは、博勞に、

「おまえ、どこへ行くんだ」とききました。

「おれは、これから伊勢いせ参りに行くところだ。おまえも行きたかったらつれて行ってやるぞ」と、博勞がいうので、かえるはついて行くことにしました。

かえるは、ぼんごり、ぼんごりとはねて行きました。竹やぶや、山や、人の家の床下ゆかしたで、泊りとま泊まりしながら行きました。そのうち、かえるは考えました。

「人間は二本足で歩く。おれだって歩けるかもしれない」

そこで、かえるは立ち上がって、二本足で歩きだしました。すると、うまく歩けるので、よろこんで、歩いて行きました。しばらく行くと、なんだか見たことのあるところに来ました。

「こりや、おかしい」と思いながら、ずんずん歩いて行って、ひと休みしました。腰こしをおろしてあたりを見ると、そこは、自分の住んでいる川のほとりでした。よく考えてみたら、目が後ろについているので、二本足で立ちあがって歩いたら、うしろ向きに歩いていたことに気がつきました。かえるは、それからは、人まねしなくなったということです。

どつとはらい